

**専攻科看護学専攻 前期**  
**専門基礎強化科目／専門性強化科目**

1. 看護における統計学の基礎
2. 臨床美術
3. 地域包括ケア論
4. 認知症ケア論
5. 看護理論研究
6. 看護技術専門演習
7. 臨地実践研修
8. 看護実践研究

看護学専攻シラバス3

科目名: 看護における統計学の基礎				担当教員氏名: 松本 三千人	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次 前期	専門基礎強化科目	講義	選択	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:					
授業科目の概要:					キーワード
データの性質把握、データの特徴の読み取り等を行うための基本的統計量及び統計的推定や検証を行う際に必要な統計量分布等について理解する。また、二つのデータグループ間の違いや関係を探るデータ分析手法に習熟し、Excelの関数機能を使って、看護の現場で取り扱うビッグデータに活用するための基礎力を見につける。					ビッグデータ、アンケート調査、データ分析、統計学
授業における学修の到達目標					
学習教育目標					
A 知識・理解力		統計学の基礎知識を習得する			
B 専門的技術		論理的な分析手法を踏まえて適切な仮説検証ができる			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト:	%	レポート: 50 %	発表:	%	実技試験: %
				その他: 50 %	
特記事項: 上記「その他」では、授業中の態度、課題演習の提出状況などで評価する。授業外での予習・復習が不可決であり、学生が主体的に学ぶ意識を持つことを重視する。					
アクティブラーニング要素:					
課題解決型学習      ディスカッション、ディベート      グループワーク      プレゼンテーション      実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 複数回のレポート、課題を適宜実施し、理解度を把握する。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポート、課題等による理解度の把握結果は、その都度個別にフィードバックする。					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な時間(分)	
① 看護にける統計学の必要性			【予習】 【復習】	【予習】60分 【復習】60分	
②統計学の基礎(1)			*データ整理に必要な基本統計量(平均、最頻値・中央値、分散・標準偏差、相関係数等)	【予習】60分 【復習】60分	
③統計学の基礎(2)			*統計学を支える確率(確率分布、確率分布における確率計算等)	【予習】60分 【復習】60分	
④統計学の基礎(3)			*統計を使いこなすための基礎知識(母集団と標本、統計量と標本分布等)	【予習】60分 【復習】60分	
⑤データの特徴をつかむ			*データの分布、バラツキを表す統計量、分布のゆがみに関する統計量等を Excel を使って学ぶ。	【予習】60分 【復習】60分	
⑥量的データの関連性をみる			*変数同士の関連性をみる相関係数の求め方、データ間の「似ている」を評価する「類似度」等について学ぶ。	【予習】60分 【復習】60分	
⑦質的データの関連性をみる			*数量的に表すことのできない質的データの分析方法としてクロス分析及びクロス表の変数間の独立性を評価する。7種の求め方等について学ぶ。	【予習】60分 【復習】60分	
⑧標本分布と統計的推定(1)			*統計的推定や統計的検証を行う際に必要な標本の統計量分布(正規分布、 $\chi^2$ 分布、t分布、F分布)について学ぶ。	【予習】60分 【復習】60分	
⑨標本分布と統計的推定(2)			*推定の考え方(点推定、区間推定)、母平均の推定、母比率の推定などについて学ぶ。	【予習】60分 【復習】60分	
⑩仮説検定(1)			*統計的推定の考え方、検定の進め方の手順等について学ぶ。	【予習】60分 【復習】60分	
⑪仮説検定(2)			*母分散を推定する( $\chi^2$ 検定)、母分散を推定する(F検定)、その他の検定方法(ノンパラメトリック検定)などについて学ぶ。	【予習】60分 【復習】60分	
⑫多変量解析について			*1つの変数から他の変数を予測する(重回帰分析)、複数の変数から他の変数を予測する(重回帰分析)について学ぶ。	【予習】60分 【復習】60分	
⑬データマーケティング			*ビッグデータの取り扱いを通して、マーケティング手法を学ぶ。	【予習】60分 【復習】60分	
⑭Excel関数機能を活用した統計処理(1)			*Excel関数機能を使って、授業内容を確認するための演習を実施する。	【予習】60分 【復習】60分	
⑮Excel関数機能を活用した統計処理(2)			*Excel関数機能を使って、授業内容を確認するための演習を実施する。	【予習】20分	
使用テキスト: 指定テキストは有りません。適宜、参考文献を紹介します。				その他参考文献など:	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):					
<関連業績等>					
データマーケティングの教育実践、情報処理教育の実施等 ----- 教育方法の実践例(1)、(2)					

看護学専攻シラバス1\_4

科目名: 臨床美術				担当教員 氏名		北澤 晃 岡野 宏宣	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考		
2	1年次 前期	専門基礎強化科目	演習	選択	臨床美術士5級		
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:		臨床美術士としての多様な現場経験から、保育士や介護福祉士の職業教育では、アートを用いた美術療法の授業を行っている。この経験を元に、本講義では非薬物療法である美術療法の成り立ちを理解し、看護実践の場のコミュニケーションに生かせる看護師育成を目指す。					
授業科目の概要: ※複数教員担当方式					キーワード		
右脳の活性化と認知症予防の関係を知り、コミュニケーション空間を作り出し、美術療法の技術を用いて生き生きとした活動を設定する力を身に付けるために、アート制作を媒介としたコミュニケーション方法やオイルパステルを中心としたアート制作技術を身につける。また、主体的にロールプレイングなどアクティブ・ラーニングすることによって看護実践の場で活動する実践力を身につける。(臨床美術士5級科目)					・美術療法・臨床美術・右脳の活性化 ・認知症予防・コミュニケーション		
授業における学修の到達目標							
学習教育目標							
A 知識・理解力		右脳の活性化と認知症について理解することができる。					
B 専門的技術		状況や関係を理解して量感画などで表す基本的技術を習得する。					
D 問題解決力		「ひと・こと・もの」に働きかけ、豊かに表現活動の場を設定するために、情報収集・分析・整理し、目的に応じた活動案が作成できる。					
F チームワーク・リーダーシップ		リーダー・サブリーダーなどの役割を理解し、チームに参画することができる。					
H コミュニケーション力		造形を通して具体的に他者を理解しコミュニケーションをすることを通して、他者に共感でき、相手の立場に立って考えることができる姿勢を身につける。					
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学期および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする							
テスト: 0 %		レポート: 30 %		発表: 30 %		実技試験: 30 %	
						その他: 10 %	
特記事項: 事前課題作品等は100%の提出とする。欠席した場合、授業内で制作した作品及び講義内容に関する課題を課す。本科目ではアクティブラーニングに基づいて、福祉施設などを想定して学生同士のロールプレイングを行う。							
アクティブラーニング要素:							
課題解決型学習		ディスカッション、ディベート		グループワーク		プレゼンテーション	
						実習、フィールドワーク	
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 発表・実技は毎時間毎に実施する。							
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 課題提出時に授業内で振り返り、コメントを伝える。							
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)			
				学習内容		学習に必要な時間(分)	
①【北澤】臨床美術基幹Ⅰ-①				【予習】自己紹介文作成 【復習】アナログ日記		【予習】60分 【復習】60分	
②【北澤】臨床美術入門Ⅰ「五感のアナログ画」				【予習】私の感性地図作成 【復習】アナログ日記		【予習】60分 【復習】60分	
③【岡野】存在論的人間観				【予習】私の感性地図作成 【復習】アナログ日記		【予習】60分 【復習】60分	
④【岡野】臨床美術入門Ⅰ「りんごの量感画」				【予習】私の感性地図作成 【復習】アナログ日記・りんごの量感画		【予習】60分 【復習】60分	
⑤【北澤】臨床美術入門Ⅰ「ジェスチャー画」				【予習】書籍『臨床美術』の感想文 【復習】アナログ日記・りんごの量感画		【予習】60分 【復習】60分	
⑥【北澤】臨床美術入門Ⅰ「立体かぼちゃ」				【予習】書籍『臨床美術』の感想文 【復習】アナログ日記・りんごの量感画		【予習】60分 【復習】60分	
⑦【岡野】臨床美術コミュニケーションⅠ「ギャラリートーク」				【予習】書籍『臨床美術』の感想文 【復習】アナログ日記・りんごの量感画		【予習】60分 【復習】60分	
⑧【岡野】臨床美術コミュニケーションⅠ「私の感性地図」鑑賞会				【予習】書籍『臨床美術』の感想文・修正輪郭画 【復習】アナログ日記		【予習】60分 【復習】60分	
⑨【北澤】臨床美術実践の基礎「アナログクロッキー演習」				【予習】書籍『臨床美術』の感想文・修正輪郭画 【復習】アナログ日記		【予習】60分 【復習】60分	
⑩【岡野】臨床美術実践の基礎「りんごの模刻」				【予習】書籍『臨床美術』の感想文・コップの素描模写 【復習】アナログ日記		【予習】60分 【復習】60分	
⑪【岡野】臨床美術実践の基礎「りんごの量感画」				【予習】書籍『臨床美術』の感想文・コップの素描模写 【復習】アナログ日記		【予習】60分 【復習】60分	
⑫【北澤】臨床美術コミュニケーションⅠ「二人で描くアナログ画」				【予習】書籍『臨床美術』の感想文 【復習】アナログ日記・りんごを描く4種		【予習】60分 【復習】60分	
⑬【北澤】臨床美術コミュニケーションⅠ「現場セッションについて」				【予習】書籍『臨床美術』の感想文 【復習】アナログ日記・りんごを描く4種		【予習】60分 【復習】60分	
⑭【岡野】臨床美術実践の基礎「ロールプレイングに向けて試作」				【予習】書籍『臨床美術』の感想文 【復習】アナログ日記		【予習】60分 【復習】60分	
⑮【岡野】臨床美術実践の基礎「ロールプレイングに向けてリハーサル」				【予習】書籍『臨床美術』の感想文の見直し 【復習】アナログ日記		【予習】60分 【復習】60分	
⑯【岡野】臨床美術実践の基礎「ロールプレイング①」				【予習】書籍『臨床美術』の感想文の見直し 【復習】アナログ日記		【予習】60分 【復習】60分	
⑰【岡野】臨床美術実践の基礎「ロールプレイング②」				【予習】書籍『臨床美術』の感想文の見直し 【復習】アナログ日記		【予習】60分 【復習】60分	
⑱【岡野・北澤】臨床美術実践の基礎「ロールプレイング及び総括」				【予習】書籍『臨床美術』の感想文の見直し アナログ日記の整理・見直し		【予習】120分	
使用テキスト: 『臨床美術士養成講座5級』, 芸術造形研究所 呆治療としてのアートセラピー』, 芸術造形研究所				『臨床美術-痴		その他参考文献など:	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): アートの楽しさを伝えるには、アートの楽しさを知らなければなりません。オイルパステルの特性を知り、自分自身が楽しめるようになるために、継続的に描き続けてみる必要があります。							

科目名: 地域包括ケア論			担当教員氏名: 荒木 晴美		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次 前期	専門性強化科目	講義	選択	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 訪問看護師や介護支援専門員等の経験から、この経験を元に地域包括ケアの発展に寄与できる看護師育成を目指す。					
授業科目の概要					キーワード
地域包括ケアの発展に寄与できる看護職としての基礎を強化するために、地域包括ケアの概念を理解し、法制度や仕組み等の理解を深め、様々なライフサイクル、健康レベルにある人々の健康支援、サービス提供について理解できる。また、実際に高齢化の地域や過疎地域に出向き調査を行い、学内において報告会を行うことで、地域の課題と政策を提言できる。					地域包括ケア、地区踏査、専門職
授業における学修の到達目標					
学習教育目標					
A 知識・理解力		地域包括ケアの概念を理解し、法制度や仕組み等について理解することができる。			
B 専門的技術		地域課題をアセスメントし、課題解決の具体的な展開方法を習得する。			
C 論理的思考力		情報や知識を複眼的、論理的に分析し、地域包括ケアの発展のための実践力を習得する。			
F チームワーク・リーダーシップ		グループワークを通し、各自専門職としての役割を理解しチームに参画することができる。			
G 倫理観		基本的人権の観点から倫理的に考察し行動できるように努める。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: 0 %	レポート: 40 %	発表: 30 %	実技試験: 30 %	その他: %	
特記事項:					
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習      ディスカッション、ディベート      グループワーク      プレゼンテーション      実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 授業終了後					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な時間(分)	
①地域包括ケアについて			【予習】シラバス確認 【復習】国の地域創生に関わる政策についての資料を読み、自分の考えを整理する	【予習】60分 【復習】60分	
②政策の動向から今日の地域社会を考える			【予習】地域包括ケアにかかわる政策について、厚生労働省プロジェクトチーム報告書に目を通し、意見をまとめておく 【復習】医療、保健・福祉の視点から地域の課題を整理する。地域社会の役割について自分の考えをまとめる	【予習】60分 【復習】60分	
③高齢者の生活状況から今日の地域社会を考える			【予習】県内の高齢化や過疎地域について、地域社会の役割の整理、住民への質問事項 【復習】地域社会の実態と課題	【予習】60分 【復習】60分	
④県内の高齢化地域、過疎の地域の状況把握(地区踏査: 県内の高齢化地域、過疎の地域を選定しグループで実施)			【予習】県内の高齢化や過疎地域について、地域社会の役割の整理、住民への質問事項 【復習】県内の高齢化や過疎地域について、地域社会の役割の整理、住民への質問事項	【予習】60分 【復習】60分	
⑤県内の高齢化地域、過疎の地域の状況把握(地区踏査: 県内の高齢化地域、過疎の地域を選定しグループで実施)			【予習】県内の高齢化や過疎地域について、地域社会の役割の整理、住民への質問事項 【復習】地域社会の実態と課題	【予習】60分 【復習】60分	
⑥県内の高齢化地域、過疎の地域の状況把握(地区踏査: 県内の高齢化地域、過疎の地域を選定しグループで実施)			【予習】県内の高齢化や過疎地域について、地域社会の役割の整理、住民への質問事項 【復習】県内の高齢化や過疎地域について、地域社会の役割の整理、住民への質問事項	【予習】60分 【復習】60分	
⑦県内の高齢化地域、過疎の地域の状況把握(地区踏査: 県内の高齢化地域、過疎の地域を選定しグループで実施)			【予習】地域包括ケアシステムの構築方法と専門職の役割 【復習】資源開発の実態について	【予習】60分 【復習】60分	
⑧④～⑦のまとめ			【予習】発表準備 【復習】討論を踏まえて地域包括ケアのあり方について自分の考えをまとめる	【予習】60分 【復習】60分	
⑨④～⑧のまとめ(発表) 地域包括ケアの現状・課題と政策			【予習】今日の研究課題について自分の考えをまとめる 【復習】	【予習】60分 【復習】60分	
⑩地域包括ケアについての文献抄読			【予習】過疎地域における地域包括ケアシステムについての論文を読み持参する 【復習】県内の高齢化、過疎の状況から研究計画書作成する	【予習】60分 【復習】60分	
⑪地域包括ケアについての研究計画書作成			【予習】過疎地域における地域包括ケアシステムについての論文を読み持参する 【復習】県内の高齢化、過疎の状況から研究計画書作成する	【予習】60分 【復習】60分	
⑫地域包括ケアについての研究計画書作成			【予習】過疎地域における地域包括ケアシステムについての論文を読み持参する 【復習】県内の高齢化、過疎の状況から研究計画書作成する	【予習】60分 【復習】60分	
⑬地域包括ケアについての研究計画書発表			【予習】地域包括ケアシステムの構築方法と専門職の役割、多職種協働 【復習】課題レポートを提出する	【予習】60分 【復習】60分	
⑭まとめ				【予習】120分	
使用テキスト: 適宜紹介			その他参考文献など: 岡村重夫『地域福祉論』 宮崎徳子他: 地域包括ケアシステムのすすめ: これからの保健・医療・福祉		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 積極的な姿勢を望みます。					

## 看護学科

科目名: 認知症ケア論			担当教員 氏名: 今川 孝枝						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
2	1年次	前期	専門性強化科目	講義	選択				
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:			病院・施設における認知症ケアの経験を活かし教授する。						
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
認知症の野人の体験や当事者の声から認知症と共に生きる人への理解を深め、ケアのあり方について考える。また、認知症ケアにおける家族力、地域力を育む方法について体験や事例を通して考える。					認知症ケア 家族 地域				
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		6. 7. 8. 9. 10				
A 知識・理解力			認知症と共に生きる人とその家族への理解を深める。						
B 専門的技術			認知症と共に生きる人とその家族の生活を支える支援の方法を理解する。						
D 問題解決力			認知症と共に生きる人とその家族、地域の中で支えるための方法について思考する。						
G 倫理観			認知症と共に生きる人とその家族、倫理的課題の解決の方向性について思考する。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	40 %	発表:	40 %	実技試験:	%	その他:	20 %
特記事項:									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 <u>ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: グループワークではプレゼンテーション、ディスカッションを行う。別途オリエンテーションを行う。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 随時、返却する。									
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容	学習に必要な時間(分)				
① 認知症ケアの原理・原則(講義とディスカッション)				【予習】テキストⅠ熟読 【復習】授業のまとめ	【予習】60分 【復習】60分				
② 認知症に関わる社会的背景と歴史の変遷(講義とディスカッション)				【予習】テキストⅣ熟読 【復習】授業のまとめ	【予習】60分 【復習】60分				
③ 認知症の病態と治療(講義)				【予習】テキストⅤ熟読 【復習】授業のまとめ	【予習】60分 【復習】60分				
④ 認知症の人の行動・心理的症狀の理解と対応(視聴覚教材とロールプレイ)				【予習】テキストⅥ熟読 【復習】授業のまとめ	【予習】60分 【復習】60分				
⑤ 認知症ケアにおけるアセスメントの視点 パーソンセンタードケアの考え方(視聴覚教材とディスカッション)				【予習】テキストⅦ・Ⅷ熟読 【復習】授業のまとめ	【予習】60分 【復習】60分				
⑥ 認知症ケアにおけるコミュニケーション(視聴覚教材とディスカッション)				【予習】テキストⅧ熟読 【復習】授業のまとめ	【予習】60分 【復習】60分				
⑦ 認知症の人と家族、家族への支援(当事者・家族の声)				【予習】テキストⅨ熟読 【復習】授業のまとめ	【予習】60分 【復習】60分				
⑧ 認知症ケアにおける倫理的課題 意思決定能力と自己決定支援、日常生活援助(事例によるグループワーク)				【予習】テキストⅡ熟読 【復習】授業のまとめ	【予習】60分 【復習】60分				
⑨ 認知症ケアにおける倫理的課題 身体拘束・虐待予防(事例によるグループワーク)				【予習】テキストⅡ熟読 【復習】授業のまとめ	【予習】60分 【復習】60分				
⑩ 認知症ケアにおける倫理的課題 尊厳と終末期ケア(事例によるグループワーク)				【予習】テキストⅡ・Ⅹ熟読 【復習】授業のまとめ	【予習】60分 【復習】60分				
⑪ 認知症ケアにおけるケアマネジメント(プレゼンテーションとディスカッション)				【予習】テキストⅦ熟読 【復習】授業のまとめ	【予習】60分 【復習】60分				
⑫ 認知症ケアにおける支援ネットワークの構築(グループワーク)				【予習】テキストⅩ熟読 【復習】授業のまとめ	【予習】60分 【復習】60分				
⑬ 認知症ケアにおける支援ネットワークの構築(グループワーク、プレゼンテーション)				【予習】テキストⅩ熟読 【復習】授業のまとめ	【予習】60分 【復習】60分				
⑭ 認知症ケアに関する研究の動向と課題(研究動向について検索)				【予習】認知症ケアに関する研究論文1本以上読み、持参する 【復習】授業のまとめ	【予習】60分 【復習】60分				
⑮ 認知症ケアに関する研究の動向と課題(研究動向についてプレゼンテーション)				【予習】認知症ケアに関する研究論文熟読 【復習】授業のまとめ	【予習】120分				
使用テキスト: 中島紀恵子: 認知症の人ひとの看護 第3版(医歯薬出版、2017、ISBN978-4-263-23688-8)				その他参考文献など:					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 質問は面接やメール等で随時対応します。積極的に学びを深めてください。									

看護学専攻シラバス9

科目名: 看護理論研究			担当教員氏名: 炭谷 靖子		
単 位	2	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次	前期	専門性強化科目	講義	選択
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:		看護実践経験に照らした事例の提示や助言、コメントをとおして学生の理論に関する理解を支援する。			
授業科目の学習教育目標の概要:				キーワード	
看護理論についての理解を深めるために、看護に関連する理論家を1人選択またはテーマを選択し相互授業を行う。				看護理論 哲学	
授業における学修の到達目標					
学習教育目標					
A 知識・理解力		看護理論の発展過程と今後への期待について述べるができる。			
C 論理的思考力		看護理論を選択し、その概要をわかりやすく説明できる。			
F チームワーク・リーダーシップ		グループで協力して、プレゼンテーションを遂行できる。			
H コミュニケーション力		他者の意見を傾聴し、自分の意見との類似点と相違点を見きわめ、調整でき			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト:	%	レポート:	70 %	発表:	20 %
				実技試験:	0 %
				その他:	10 %
特記事項: その他については、授業中の発言の状況を評価する。					
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 (ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション) 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 授業進行の過程で適宜評価し、フィードバックする。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 面談、またはクラスルームを利用した課題提出と返却により行う。					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な時間(分)	
① 看護理論とは何か 発展の過程			【予習】 テキストの熟読 【復習】 キーワードのまとめ	【予習】60分 【復習】60分	
② 看護理論の実践への適用の意義と方法			【予習】 テキストの熟読 【復習】 キーワードのまとめ	【予習】60分 【復習】60分	
③ グループワークと理論研究の進め方			【予習】 テキストの通読 【復習】 選定した理論家の記載部分を	【予習】60分 【復習】60分	
④ 看護理論研究(グループワーク)			【予習】 理論家の資料収集 【復習】 意見交換内容のまとめ	【予習】60分 【復習】60分	
⑤ 看護理論研究(グループワーク)			【予習】 意見交換内容の確認 【復習】 意見交換内容のまとめ	【予習】60分 【復習】60分	
⑥ 看護理論研究(グループワーク)			【予習】 意見交換内容の確認 【復習】 意見交換内容のまとめ	【予習】60分 【復習】60分	
⑦ フローレンス・ナイチンゲール			【予習】 発表資料の熟読 テキストの熟読	【予習】60分 【復習】60分	
⑧ アーネステイン・ウイデンバック			【予習】 発表資料の熟読 テキストの熟読	【予習】60分 【復習】60分	
⑨ ヴァージニア・ヘンダーソン			【予習】 発表資料の熟読 テキストの熟読	【予習】60分 【復習】60分	
⑩ フェイ・グレン・アブデラ			【予習】 発表資料の熟読 テキストの熟読	【予習】60分 【復習】60分	
⑪ バトリシア・ベナー			【予習】 発表資料の熟読 テキストの熟読	【予習】60分 【復習】60分	
⑫ シスター・カリスト・ロイ			【予習】 発表資料の熟読 テキストの熟読	【予習】60分 【復習】60分	
⑬ キャサリン・コルパカ			【予習】 発表資料の熟読 テキストの熟読	【予習】60分 【復習】60分	
⑭ ドロセア・E・オレム			【予習】 発表資料の熟読 テキストの熟読	【予習】60分 【復習】60分	
⑮ まとめ			【予習】 発表資料の熟読 テキストの熟読	【予習】120分	
使用テキスト: 看護理論集(日本看護協会出版会)			その他参考文献など: 看護理論家とその業績(医学書院)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): グループワークでは理論家を一人選択し、その理論についてスライド20枚以内にまとめてプレゼンテーションする。 なお、理論家については、上記に挙げた人物以外でもよい。					

看護学専攻シラバス111

科目名:	看護技術専門演習			担当教員 氏名:	高田 亮子 他
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次 前期	専門性強化科目	演習	選択	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 様々な領域での実務経験をもと実践例の提示等を行う。					
授業科目の概要: 複数教員担当方式					キーワード
<p>○本授業の受講により看護に用いる技術についての理解を深め、看護実践における根拠に基づいた技術の重要性とその応用のあり方について理解する。また、他者へ伝える方法としてシミュレーションを取り入れた模擬授業を体験する。</p> <p>・本授業では、共同担当によるゼミ形式で授業を進める。          ・学生自身が内容を深めたい技術を選定し、技術の根拠を確認する。新人指導のための指導案を作成し模擬授業を行う。          ・学生の選定した技術内容により担当教員を決め、担当教員の指導を受けて個々に授業をすすめる。          ・模擬授業では、本授業の受講者及び教員等が模擬授業を受講し、授業内容、方法等について意見交換を行う。</p>					看護技術 根拠 EBN 模擬授業 シミュレーション教育
授業における学修の到達目標					
学習教育目標					
A 知識・理解力	選定した技術の目的、方法について根拠を示して説明できる。				
B 専門的技術	選定した技術について、模擬授業でデモンストレーションできる。				
C 論理的思考力	選定した技術について、新人看護師を想定した指導案を作成できる。				
D 問題解決力	選定した技術以外の項目について、指導案への意見を述べるができる。				
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト:	%	レポート: 50 %	発表: 50 %	実技試験: %	その他: %
特記事項:					
アクティブラーニング要素:					
課題解決型学習 <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">ディスカッション、ディベート</span> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">グループワーク</span> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">プレゼンテーション</span> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">実習、フィールドワーク</span>					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 授業ごとの教員との面談でフィードバックする。					
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)	
				学習内容	学習に必要な時間(分)
① オリエンテーション 授業とは何か 授業を成立させる要件 授業案の作成の仕方授業計画の立案				【予習】シラバスの確認、テキスト授業案とは 【復習】課題の確認	【予習】60分 【復習】60分
②授業の展開・実施 教育技法について アクティブラーニングの特徴と使い方				【予習】授業案の作成方法 【復習】課題の確認	【予習】60分 【復習】60分
③教育評価の概要				【予習】教育評価とは何か 【復習】文献の抄録	【予習】480分 【復習】480分
④ 模擬授業を行う技術を選定し、その技術を選定した動機、意義について説明し、検討する。【担当教員全員】				【予習】指導案作成 【復習】指導内容の確認	【予習】600分 【復習】600分
⑤～⑩ 選定した授業科目の目的、方法、根拠、留意点について文献検索を行い資料を作成する。【担当教員全員】				【予習】技術演習準備 【復習】教育内容の確認	【予習】360分 【復習】360分
⑪～⑲ 指導計画・評価計画を作成する (担当教員ごとのグループワーク)【担当教員全員】				【予習】模擬授業準備 【復習】教育内容の確認	【予習】240分 【復習】240分
⑳～㉒ 授業案のPP・資料演習 (担当教員ごとのグループワーク)【担当教員全員】				【予習】模擬授業準備 【復習】教育内容の確認	【予習】1240分 【復習】1240分
㉓～㉕ 指導案プレゼンテーションおよび模擬授業【担当教員全員】				【予習】模擬授業準備 【復習】指導内容の確認	【予習】240分 【復習】1240分
使用テキスト: 野崎真奈美:計画・実施・評価を循環させる授業設計看護教育における講義・演習・実習のつくり方.医学書院 ISBN978-4-260-02387-0				その他参考文献など:看護教育学研究発見・創造・証明の過程、看護学教育評価の基礎と実際、学習方略の心理学、アクティブラーニングをこえた看護教育を実現する、ポートフォリオで未来の教育	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 学び手を中心とした主体的な学びを創造し、専門職としての看護実践能力の育成に必要な知識と技術についての知識を深め、探索的な学習ができる技法を身につける。看護実践及び継続教育の基礎的な教育技術が身につけられるよう、自らも主体的な学習姿勢で臨んでください。					

看護学専攻シラバス11

科目名:	臨床実践研修			担当教員 氏名	炭谷 靖子 他				
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考				
10	1年次 通年	専門性強化科目	実習	必修					
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 病院、地域、在宅での実務経験と看護管理の経験を踏まえ、学生の臨地での経験に対して実践状況を理解したうえで助言を行う。また、実践と理論との対話の中より深い学びへと進むための支援を行う。									
授業科目の概要: 複数教員担当方式				キーワード					
看護現場で生起している現象を看護師としての資格をもとにリアルな体験を積み、現場で起こっている現象を記述し、言語化する。看護の領域ごとに分類し、具象から表象レベルに整理する。また、相互の学習内容を共有化し、学習を広げる。また、看護実践研究の動機にいかすことができる。(外来、病棟、訪問看護等多様な現場での体験をもとに行う) ・本科目では、共同担当によるゼミ形式とする。 ・各目の実践を重ねる場所別に事実を領域として分類し、考察していく。 ・看護領域の参考図書、研究論文を参照しながら、事実を言語化する。 ・学生が、2つの課題(事例・管理等)の発表を行い、相互に意見交換し、内容を深める。				問題解決思考 専門職 意志決定 看護の独自性 看護理論 ケア					
学習教育目標									
A 知識・理解力	実践を言語化し、看護実践を理論的に批判し、自己の看護を確認する。そのためのアセスメント・診断を知識と整合性をもたせることで科学的に証明する能力を養う。看護の対象である人々の安全、安楽、自立、個性性を支えるための正確な知識・技術を修得できる。								
B 専門的技術	看護過程の展開の技術が修得できる。								
C 論理的思考力	科学的・分析的態度を身につけることができる。								
F チームワーク・リーダーシップ	演習やグループワークを通して、自己の役割を理解し、発言力、傾聴力、調整力、マネジメント力をもつことができる。								
G 倫理観	看護実践における倫理的感受性を高め、対象への倫理的意志決定ができる能力を高める。								
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学期および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	50 %	発表:	40 %	実技試験:	%	その他:	10 %
特記事項:									
アクティブラーニング要素:									
課題解決型学習      ディスカッション、ディベート      グループワーク      プレゼンテーション      実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 中間発表会、最終発表会で各学生の発表内容をもとに、広く看護の全体像を学ぶ。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 形成的評価を、週に1回に学内で教員とともにを行い、次週の学習活動につなぐ。									
課題: ①実習日誌の提出(50日分)と振り返り    ②2事例の事例報告を行う(レポート&発表)    ③臨床実践研究の課題抽出(テーマ設定)									
授 業 計 画 (学 内)				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容	学習に必要な時間(分)				
① オリエンテーション 看護実践の評価と看護過程 学習計画(2事例の看護実践評価)				【予習】テキスト1の看護過程を要約する 【復習】講義の振り返り 課題プリント	【予習】60分 【復習】60分				
②1例目 実践実習(アセスメント・診断・計画、管理等)				【学習】テキスト1の看護過程(アセスメント・診断・計画・実践・評価)学習 【復習】課題レポート作成	【予習】60分 【復習】60分				
③実践実習(アセスメント・診断・計画・実践・評価、管理等)				【学習】テキスト1の看護過程(アセスメント・診断・計画・実践・評価)学習 【復習】課題レポート作成	【予習】60分 【復習】60分				
④実践実習(アセスメント・診断・計画・実践・評価、管理等)				【学習】テキスト1の看護過程(アセスメント・診断・計画・実践・評価)学習 【復習】課題レポート作成	【予習】60分 【復習】60分				
⑤実践実習(アセスメント・診断・計画・実践・評価、管理等)				【学習】テキスト1の看護過程(アセスメント・診断・計画・実践・評価)学習 【復習】課題レポート作成	【予習】60分 【復習】60分				
⑥実践実習(実践・評価)				【学習】テキスト1の看護過程(アセスメント・診断・計画・実践・評価)学習 【復習】課題レポート作成	【予習】60分 【復習】60分				
⑦実践実習(実践・評価)				【学習】テキスト1の看護過程(アセスメント・診断・計画・実践・評価)学習 【復習】課題レポート作成	【予習】60分 【復習】60分				
⑧カンファレンス 意見交換				【学習】テキスト1の看護過程(アセスメント・診断・計画・実践・評価)学習 【復習】課題レポート作成	【予習】60分 【復習】60分				
⑨2例目 実践実習(アセスメント・診断・計画・実践・評価、管理等)				【学習】テキスト1の看護過程(アセスメント・診断・計画・実践・評価)学習 【復習】課題レポート作成	【予習】60分 【復習】60分				
⑩実践実習(アセスメント・診断・計画・実践・評価、管理等)				【学習】テキスト1の看護過程(アセスメント・診断・計画・実践・評価)学習 【復習】課題レポート作成	【予習】60分 【復習】60分				
⑪実践実習(アセスメント・診断・計画・実践・評価、管理等)				【学習】テキスト1の看護過程(アセスメント・診断・計画・実践・評価)学習 【復習】課題レポート作成	【予習】60分 【復習】60分				
⑫実践実習(アセスメント・診断・計画・実践・評価、管理等)				【学習】テキスト1の看護過程(アセスメント・診断・計画・実践・評価)学習 【復習】課題レポート作成	【予習】60分 【復習】60分				
⑬実践実習(実践・評価)				【学習】テキスト1の看護過程(アセスメント・診断・計画・実践・評価)学習 【復習】課題レポート作成	【予習】60分 【復習】60分				
⑭実践実習(実践・評価)				【学習】テキスト1の看護過程(アセスメント・診断・計画・実践・評価)学習 【復習】課題レポート作成	【予習】60分 【復習】60分				
⑮発表会、意見交換				【復習】課題レポート作成	【予習】120分				
使用テキスト: ①基本から学ぶ看護過程と看護診断 ロザリンダ・アルファロ・ロフイーヴァ(著)、本郷 久美子(翻訳) 医学書院 ②系統看護学講座-統合分野 1 看護管理、上泉和子 共著、医学書院				その他参考文献など: 看護診断のためのよくわかる中範囲理論 黒田裕子 学研 その他 看護理論					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 今までの実践を振り返り、事例課題を作成し、グループで意見交換し、看護に対するリサーチクエスト、文献検索、結果へのアセスメント、考察、まとめの一連の過程を理解していく。また、目標設定等計画的に進めていく力をもって学習活動を行ってほしい。									



看護学専攻1-12

科目名: 看護実践研究				担当教員 氏名: 長谷川雅美 他	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
5	1年次 通年	専門性強化科目	演習	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 地域看護、病院看護等の実務経験と看護管理の経験を踏まえ、学生の臨地での経験に対して実践状況を理解したうえで助言を行う。また、実践と理論との対話の中でより深い学びへと進むための支援を行う。					
授業科目の概要:複数教員担当方式				キーワード	
<p>○看護師として現場での活動を職能として蓄積し、発展し続ける基盤を強化するために、インターンシップにおける日々の看護活動を取り上げ研究に繋げることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本授業では、共同担当によるゼミ形式で授業を進める。</li> <li>・学生自身が内容を深めたい臨地での事象や活動を取り上げ、その事象や活動の意味と意義を確認し、今後の発展に向けた可能性を提言する。</li> <li>・学生が取り上げた内容により担当教員を決め、担当教員の指導を受けて個々に授業をすすめる。</li> <li>・報告会では、報告内容について発展的に意見交換を行う。</li> </ul>				看護活動 業務改善	
授業における学修の到達目標					
学習教育目標					
A 知識・理解力		取り上げた活動や事象(テーマ)について事実をわかりやすく説明できる。			
C 論理的思考力		テーマについてその意味や意義をわかりやすく説明できる。			
D 問題解決力		テーマについて今後の発展に向けた課題を見出し説明できる。			
G 倫理観		テーマについての課題解決に向けて倫理的配慮ができる。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト:	%	レポート:	80 %	発表:	20 %
実技試験:	%	その他:	%		
特記事項:					
アクティブラーニング要素: <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">課題解決型学習</span> ディスカッション、ディベート    グループワーク <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">プレゼンテーション</span> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">実習、フィールドワーク</span>					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な時間(分)	
① オリエンテーション 受業の進め方について【担当教員全員】			【予習】シラバスの確認 【復習】詳細の確認	【予習】60分 【復習】600分	
② 内容を深めたいテーマを選定し、担当教員を決定する【担当教員全員】			【予習】取り上げる活動や事象(テーマ)についてまとめる 【復習】面談内容のまとめ	【予習】600分 【復習】60分	
③~④ テーマに関する文献検討を行い研究目的を明確にする【担当教員全員】			【予習】文献リストの作成 【復習】面談内容のまとめ	【予習】600分 【復習】120分	
⑤~⑫ 研究計画書、研究倫理書類を作成する【担当教員全員】			【予習】計画書の作成 倫理審査書類の作成 【復習】面談内容のまとめ	【予習】600分 【復習】600分	
⑬~⑳ 研究計画に従い実施する【担当教員全員】			【予習】研究の実施 【復習】面談内容のまとめ	【予習】1200分 【復習】600分	
㉑~㉘ 論文執筆基準に従い研究論文を作成する【担当教員全員】			【予習】論文の作成 【復習】面談内容のまとめ	【予習】600分 【復習】600分	
㉙~㉚ 研究成果を報告会で発表する【担当教員全員】			【予習】発表準備 【復習】発表後のまとめ	【予習】600分 【復習】600分	
使用テキスト:担当教員と相談してください。 出身校等で使用したものを持参してください。			その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):					